

Campus Life

No175 2020.3



イルミネーション点灯式



10年生最後の授業
桜の木にみんなで桜を咲かせよう
(TIP・モンゴル)



クリスマスのイベントに参加
(中期留学・SNC)



海外ゼミの様子
(富岡ゼミナール)

キャンパスライフ 2019.9～2020.1

日本大学ワールド・カフェ

10月20日(日)、日本大学の全1年生を対象とした学部間交流行事「ワールド・カフェ」が行われた。三島会場では、他学部からの学生を多数迎えて、将来の目標などについて熱心な意見交換が行われた。



第69回富桜祭、7,221人の来場者で賑わう

10月26日(土)と27日(日)の2日間、「Rails ～130年の意思を乗せた国際列車～」をテーマに、第69回富桜祭が開催された。校内各校舎では、文化系団体やゼミナールの展示や活動が紹介された。また、多くの模擬店が軒を連ね終日賑わい、野外特設ステージでは、音楽演奏やダンス、その他多数の催しが披露された。



後期交換留学生受入れ開始

海外提携校からの交換留学生受入れを、9月11日に開始した。アメリカ、韓国、スペイン、台湾、中国から、計9名の学生が半年または1年間、本学部で学ぶ。交流活動も、公認学生団体「バディプログラム」を中心に数多く計画されている。



「令和元年度下期市民公開講座」



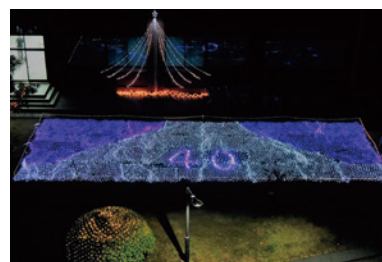
10月、下期市民公開講座「世界の国々から一暮らしに息づく文化ー」を開催。本学部の教員が計5回の講演を行った。ヨーロッパ、ロシア、東南アジアといった幅広い国や地域の風土や国民性について熱弁が振られた。毎回多くの市民の皆様がご参加くださり、活発な質疑応答や意見交換が行われた。

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2019

11月27日(水)、静岡県中・東部の大学等の学生による研究発表会で、国際関係学部学生の以下の5つのポスター発表が入賞した。最優秀賞、氏家美里「北方領土問題を考える」。優秀賞、渡辺誠大「ヘタ号をめぐる日ロ交流を広めるために」・三原萌「YouTubeから見る10代のネット利用」・林穂乃佳「人間とペットの共存」・佐藤優衣「皿色が食べ物の印象に与える影響」。

学部創設40周年クリスマスイルミネーション点灯式

昨年より豪華になったツリーやオブジェに11月26日(火)電飾が灯った。学生による様々なパフォーマンスが披露される中、飲食物やプレゼントも振舞われ、師走の寒さを吹き飛ばす賑わいとなった。



異文化交流会を開催



12月3日(火)に北口校舎の食堂にて、第2回異文化交流会を開催。本学部に通じる留学生と日本人学生約100名が7か国18種類の多国籍ビュッフェを囲みながら、異文化体験ゲームを通して、盛んに意見交換した。

国際関係研究所主催 国際シンポジウム2019開催

11月30日(土)、国内外から5名の専門家を迎え、「日本の新移民政策 一諸外国の教訓と日本への提言ー」と題する国際シンポジウムを開催。諸外国における外国人労働者受け入れ政策を徹底的に分析し、同時通訳を交えた討論が展開された。終日多くの聴衆が訪れ、関心の高さが示された。



最新のキャンパスニュースは、国際関係学部ホームページ(<http://www.ir.nihon-u.ac.jp/>)にて、随時更新してお伝えしています。ぜひご覧ください。

活躍する在学生

世宗大学校への留学

国際教養学科 3年 派遣交換留学 趙 萌萌

大学の学びの中で、私は留学をすることがすべてではないと思います。他にやりたいことがあれば、それを優先すべきだと思います。しかし、「語学勉強のため」、「異文化体験のため」、「将来のため」など留学する目的があれば、それを達成できるところへ留学すべきだと思います。

現在、私は韓国の世宗大学校へ留学しています。韓国語や東アジアの文化に興味があり、さらに英語力の向上も図りたかったため、英語の教養コースがある世宗大学校を選びました。授業は英語メインで行われ、クラスメイトの積極的な姿や大胆な発言など良い刺激を受けています。この経験により、自分自身を見つめ直すきっかけになり、授業を受ける姿勢にも変化があらわれました。

留学生活は、楽しいことばかりではありませんが、自分自身を大きく成長させ、未知の世界に飛び込む勇気を持つことができます。皆さんも機会があれば、留学を検討してみたいかがでしょうか。



ソウル・ロッテワールドにて

静岡県大学バレーボール選手権大会優勝

国際教養学科 4年 小野 貴史

男子バレーボール部は、昨年6月・11月に行われた静岡県大学バレーボール選手権で優勝しました(11月は連覇達成)。この結果により日々の練習の成果を十分に発揮し、強くなったことを証明することができたと思います。

また、中部日本バレーボール選手権の静岡県予選会で優勝し、7月に福井県で行われた本戦に静岡県代表として出場することができました。この大会では、良い結果を残すことはできませんでしたが、チームの成長のために大事な試合だったと思います。

私はこのチームの部長を務めさせていただき、部長としての仕事や試合への出場を通じて大きく成長することができました。今後は、この経験を活かして社会に貢献したいと思います。



中国への中期留学

国際総合政策学科 3年 浜田 黎明



夜の天安門をバックに

「近年増加している中国人観光客とコミュニケーションを取りたい。」そんな思いから私は留学を決めました。4か月間という期間は不安でしたが、実際は想像以上の刺激的な経験

ができました。

現地での授業は語学のほか、政治、経済、外交と広範囲で学べます。難しい内容でしたが、言語は授業後すぐに実践ができるため、自然と語学力がつき、中国を知る上で非常に役立ちました。

休日は市内散策をしました。北京には多くの世界遺産(万里の長城、紫禁城)があり、休日は市内散策を楽しみました。また、北京大学は様々な国籍の学生が在籍しています。中国格闘技の大会に参加したり、一緒に水餃子を作ったり、学生間での国際交流も行うことができました。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、海外から約4000万人の外国人観光客が来日される予想です。私は今回の留学を通して自分自身、中国との懸け橋になりたいと思いました。

女子プロ野球選手誕生

国際教養学科 4年 柳 理菜



2019年9月に女子プロ野球のトライアウトに参加し、合格することができました。私は小学2年生から兄の影響で野球を始め、ずっと夢を叶えるために頑張ってきました。今

回、女子プロ野球選手になれた1番の理由は、4年間で多くの失敗と成功を経験できたからだと思います。

私は3期生として入部しましたが、当時はうまくいかないことが多く、自分自身もケガをするなど思うような結果を残せませんでした。しかし、それでも諦めずにチームメイトや指導者とともに努力続けた結果、4つの大会で準優勝をすることができました。

優勝という目標には一步及びませんでしたが、多くの方の応援があったからこそ、ここまで頑張れたと思います。女子野球は知名度が低いですが、この4年間で学んだことを活かして、1人でも多くの方に魅力を伝えられるように努力していきたいと思っています。

被災地での民泊。震災の記憶を心に刻む

後期は、昨年度に引き続き、東日本大震災の被災地を巡る学外研修を実施しました。

新たに令和の時代を迎えた日本でしたが、九州北部の集中豪雨や、二度にわたる大型台風の襲来など、自然災害に見舞われた1年でもありました。毎年のように列島を襲う自然災害に、我々はどのように向き合い、いかに備えればよいのでしょうか。その答えを求めて、学生たちは今年も東北の被災地を訪れました。

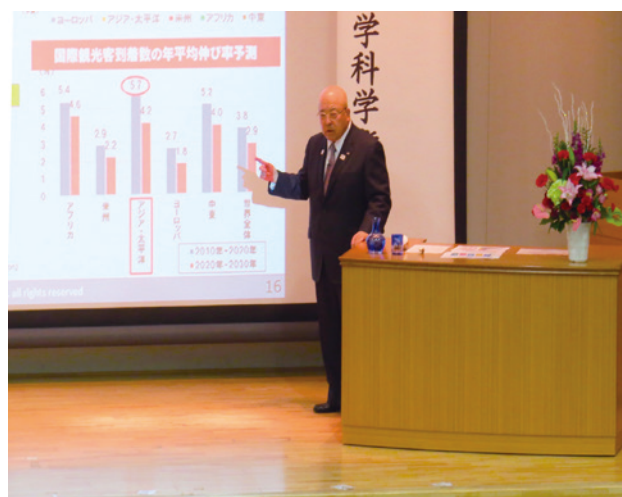


上・古民家の壁を修繕する学生たち
下・宿泊先の家庭での団楽

10月3日(木)夜、学生20名と引率教員・助手各1名の一行は、夜行バスで三島市を発ち、4日朝に宮城県南三陸町に到着しました。ここでは、南三陸町観光協会の方から震災に関する講義を受け、古民家再生のお手伝いもしました。この日の宿泊は、現地の民家にお邪魔する民泊です。食卓を囲みながら被災の実体験を町の

方々からじっくり聞ける、ホテルや旅館では味わえない貴重な体験ができました。翌5日は、松島町に移動し、伊達政宗ゆかりの寺院として知られる瑞巖寺を参拝した他、町内を観光しました。

被災地の方々の心温まるおもてなしに感謝しつつ、震災から復興までの道のり、そして日本の災害対策における課題について真剣に考えさせられる、実り豊かな研修となりました。



学術講演会の様子

また、前期と同様に、後期も4回の学術講演会を行いました。大和大学准教授の竹本知行氏から、大村益次郎が主導した明治期の軍制改革について、三島税務署長の山下和晃氏から、くらしを支える税について、一般社団法人日本旅行業協会会長・株式会社JTB代表取締役会長の田川博己氏から、旅行業の現状と今後について、防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室所員の齋藤達志氏から、太平洋戦争における戦争指導について、それぞれ講演をしていただきました。

来年度も本学科は、学生の学びの機会の拡大と、質の向上を第一に、日々学科行事の創意工夫、改善に努めていきます。

大学院・国際関係研究科だより

研究の成果を報告。博士前期課程2年生による令和元年度「研究指導Ⅱ」学内発表会実施



学内発表会の様子

10月19日(土)、博士前期課程2年生が、各々の研究成果を報告する令和元年度「研究指導Ⅱ」受講者学内発表会を実施しました。今回は4名が報告を行いました。教職員も出席し、質疑応答の時間には盛んに議論が交わされました。報告者たちは、研究科所属の教員からの厳しい質問や指摘に苦戦しながらも、懸命に応答していました。ここでの報告を踏まえ、大学院生たちは2年間の研究の集大成となる修士論文の完成に向けて、最後の仕上げに入ります。

芸術の秋、 劇団四季のミュージカルを鑑賞



劇団四季の劇場前にて

芸術を通して、文化を学ぶ。国際教養学科の学生は、後期の学外研修として劇団四季のミュージカルを鑑賞しました。

演目は、ディズニーアニメを原作とし、演劇界最高の栄誉とも言われるトニー賞をはじめ数々の賞を受賞したミュージカル史に残る傑作『ライオンキング』です。今回の研修にも多くの学生が参加し、事前にミュージカルの歴史や特徴を学ぶことで、舞台芸術としての作品に対する理解を深めました。多様な文化が融合し、音楽・歌・踊り・芝居が一体となって進行するミュージカルの鑑賞を通して、学生自身が欧米文化を肌で感じながら学ぶ有意義な研修となりました。国際教養学科では、時にキャンパスを飛び出し、学生自身が世界の文化や芸術に直接触れながら教養を深めています。

様々な分野の 専門家による講演会を実施

また、後期には学外から専門家をお招きして学術講演会を開催しました。今年度5回目となる11月26日(火)の講演会では、慶應義塾大学から言語学者の川原繁人先生にお越しいただき、「マイボイス-言語学者、象牙の塔を出る」と題して講演いただきました。言語学者として専門的知識を活かし、どのように社会へ貢献していくかという内容の講演は、学生自身にとっても大学での学びと社会との繋がりを考える良い機会となりました。参加した学生も熱心に耳を傾けていました。



川原繁人先生による講演会の様子

LANGUAGES & STUDY ABROAD

令和元年度 国際関係学部長杯争奪

外国語スピーチコンテスト結果

英語部門入賞者 (令和元年12月21日(土)13時 開催)

優勝	田島 隼人	国際関係学部国際教養学科4年
準優勝	齋藤 大空	国際関係学部国際教養学科1年
3位	辛 承賢	国際関係学部国際総合政策学科1年

中国語部門入賞者 (令和元年12月1日(日)13時 開催)

【暗唱の部】

優勝	佐藤 星歩	国際関係学部国際教養学科1年
準優勝	山田 莉帆	国際関係学部国際総合政策学科1年
3位	田村 優衣	文理学部中国語中国語文化学科1年

【弁論の部】

優勝	竹倉 龍之介	国際関係学部国際教養学科3年
準優勝	高倉 芽衣	国際関係学部国際教養学科2年
3位	下平 綾畝	国際関係学部国際教養学科2年

令和元年度 国際関係学部 留学実績

留学(派遣)

ダブル・ディグリー・プログラム	1
国際関係学部派遣交換留学	9
日本大学交換留学	2
中期留学	
(セント・ノーバート・カレッジ)	12
中期留学(ゴア大学)	8
中期留学(北京大学)	23
認定留学(1年)	7
認定留学(半年)	40
TIP(英語圏)	9
TIP(モンゴル)	3

小 計 114

短期海外語学研修

ストーニーブルック大学	2
ハワイ大学	18
トロント大学	23
フライブルク大学	3
西カトリック大学	1
北京大学	14
サラマンカ大学	13
慶熙大学校	11
本部短期海外研修	2

小 計 87

合 計 201名

*令和元年度中にプログラムを開始した学生ののみ

短期大学部（三島校舎）・学科だより **ビジネス教養学科**

ビジネス教養学では、7月2日(火)に学術講演会を実施いたしました。学術講演会は学外から講師を招き、ビジネス教養学科で学ぶ様々な科目を実務の世界でどのように活かすことができるのかを学生に知ってもらうことを目的にしています。今回は、国際関係学部助教の永井雄一郎先生に「宇宙をめぐる国際関係と日本」と題し、宇宙開発における日本の役割について国際関係の視点からご講演いただきました。

永井先生は、短期大学部商経学科(現 ビジネス教養学科)卒業後、国際関係学部編入学した経歴をお持ちの先生です。学生にとっては先輩であり、講演内容もさることながら、自らの進路を考えるための良きお手本とも感じたようで、講演の後の質疑応答も大いに盛り上がりしました。

夏休み期間中の8月には「インターンシップ」が実施されました。現在、様々な期間・スタイルのインターンシップが実施されておりますが、本学のインターンシップは、受入先企業と綿密な連携のもと学科における事前指導の後、2週間の期間で実施されるのが特徴です。参加した学生には2単位が与えられます。

本年度は5つの企業に7名の学生がお世話になりました。受入先企業は、三島市役所、三島信用金庫、近畿日本ツーリスト、ホテルサンバレー、ザ・ラグジエナ学生にとって就職先としても魅力のある企業にご協力をいただきました。参加した学生にとっては、その後の就職活動に役立ったことは言うまでもありません。

10月26日(土)・27日(日)には、「富桜祭(ふおうさい)」が開催されました。富桜祭は国際関係学部と短期大学部合同で開催される学園祭です。今年度はビジネス教養学科からゼミナール単位での参加はありませんでしたが、所属サークル等の活動を通じて普段の学生生活では得ることのできない貴重な経験を得ることができました。



三島キャンパス 2020年度・前期の予定

3/31~4/4 >> ガイダンス期間

4/2 >> 入学式・開講式

4/4 >> 授業開始

7/4 >> 英語統一試験

7/9~7/22 >> 到達度確認期間

7/22 >> 前期授業終了

7/23・24 >> 定期試験(諸課程)
教職と栄養士科目

7/25 >> 夏季休暇開始

8/27・28 >> 追試験

9/17 >> 夏季休暇終了

9/18 >> 後期授業開始

【卒業】に関する日程

国際関係学部・短期大学部(三島校舎)

3月 7日(土)

卒業・修了決定者発表

3月25日(水)

卒業式

学位記・修了証書等伝達式

14時00分～

よみうりホール(読売会館7階)

卒業パーティー

学部/17時30分～ 短大/17時00分～

ホテルメトロポリタン エドモント

短期大学部（三島校舎）・学科だより 食物栄養学科（1年生、2年生）

食物栄養学科の1年生は入学からもうすぐ1年が過ぎ、2年目の春を迎えます。この1年間でキャンパス生活をはじめ、多くのことを経験し、一回り成長したように思います。2年生は卒業の季節を迎え、それぞれの新たな未来に向けて着々と準備をしています。



食物栄養学科では、毎年1・2年生を対象に食に関する専門家をお招きして学術講演会を実施しています。令和元年度は国立研究開発法人国際農林水産研究センターの齋藤昌義先生にご来校いただき、「アジア地域における伝統食品と食品研究の海外展開」というタイトル

でご講演いただきました。特に豆腐や魚を発酵させた食品のお話は興味深いものでした。次年度も新たな専門家をお招きして開催する予定でおります。

また、本年度も2年生を対象に学外研修として、三島市内のホテル（みしまプラザホテル）でマナー講座を実施しました。この研修では、ホテルの講師の先生（本学科卒業生）の指導の下、実際に西洋料理のフルコースを食べながら食事のマナーや栄養素について学びました。



短期大学部（三島校舎）・専攻科 食物栄養専攻だより

専攻科1年生は、これまでの基礎知識に加え、より専門的な知識を学んでいます。日々、新たなことに挑戦し、それぞれの夢を叶えるために努力しております。専攻科2年生は、新たな世界へ大きく羽ばたこうとしております。

専攻科 食物栄養専攻では、毎年、食と栄養・健康に関わる幅

広い分野の専門家をお招きして学術講演会を開催しております。本年度は静岡県農林技術研究所次世代栽培システム科 上席研究員の大場聖司先生にご来校いただき「農産物・生鮮食品機能性表示の取り組み」というテーマでご講演いただきました。近年、注目されているGABAの機能性表示食品について学びました。



また、11月27日（水）に「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2019」（富士山麓A&S 2019）が開催されました。この催しは、静岡県中・東部の大学、大学院、短期大学、高等専門学校に所属する学生が一堂に集い、日頃の研究成果を発表するイベントです。自身の研究発表はもちろんのこと、様々な場所で研究している同年代の仲間たちの研究成果に触れ、これからの研究生活においてとても良い刺激となったことと思います。

富士山麓A&Sフェア2019優秀ポスター賞等表彰者

第3グループ

優秀賞 国際教養学科 3年 渡辺 誠大
「ヘダ号をめぐる日ロ交流を広めるために」

第4グループ

優秀賞 国際教養学科 4年 佐藤 優衣
「血色が食べ物の印象に与える影響
—料理による効果の違い—」

第5グループ

最優秀賞 国際教養学科 3年 氏家 美里
「北方領土問題を考える～国後島を訪問して～」

優秀賞 国際教養学科 4年 三原 萌
「YouTubeから見る10代のネット利用」

優秀賞 国際総合政策学科 4年 林 穂乃佳
「人間とペットの共存 —世界から殺処分をなくすために—」

就職最前線・就職内定者たちの声

平成30年度卒業者の就職率は、国際関係学部で95.7%、短期大学部(三島校舎)で96.6%となりました。就職率は、就職を希望する者に占める就職内定者の割合を表すものです。また、平成30年度の全国の大学新卒者就職率は、文部科学省の状況調査で97.6%(平成31年4月1日現在:短大は98.6%)であり、依然として高水準にあります。前年度と比較すると若干低下しており、今後いわゆる「売

り手市場」が継続するかどうかは雲行きが怪しくなりつつあります。

大企業、人気企業の難易度は相変わらず高く、一部業界では採用の抑制傾向が出ています。また、採用選考の早期化・短期化も顕著になってきており、予断は許されない状況です。就職活動においては、できる限り早期に自分のキャリアについて考え、準備し、行動に移すことが重要になってきているのです。



最後まで諦めない

国際関係学部
国際総合政策学科 4年 野口 隼人
東京地下鉄株式会社

私は幼い頃から電車が好きで、将来は電車の運転手になると言っていました。その気持ちは大学生になってからも変わらず、気が付いたら就職活動の時期になっていました。しかし、エントリーシートや面接のときに志望動機を聞かれ、正直本当にここに入って何がやりたいのか、好きなことを仕事にしているのか悩まされました。鉄道会社に限らず、他企業も好きだから入れるほど甘いものではありません。その現状に立たされた時はとても焦りと不安でいっぱいでした。しかし、私にも意地があったので、どうしたらいいのか就職指導課の方々や家族にたくさんアドバイスをもらいに行き、解決策を見つけていき、選考に臨んでいきました。

その結果、運とご縁があったおかげで、東京メトロさんに内定を頂くことが出来ました。合格通知が来たときは、本当に諦めずにやってきて良かったと感じました。今後は、今まで支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れずに、またたくさんのお客様のために頑張っていきたいと思っています。

最後に、これから就職活動をされる皆様、何度もうつらい思いや悩みがたくさん出てくるとは思います。しかし、自分をしっかりと持っていればおのずと結果は出てきます。最後まで諦めずに頑張ってください。心から応援しています。



食べた人が健康になれる道を目指して

短期大学部
食物栄養学科 2年 山田 萌花
日清医療食品株式会社

私は幼い頃から食べる事が大好きで、食に関わる仕事がしたいと思い、栄養士を目指しました。なぜ、調理師ではなく栄養士を選んだのかというと、ただ作って食べてもらい、美味しいという幸せを提供するだけでなく、それを食べた人が健康になれるという幸せも与えられると思ったからです。

私は短大2年生の春頃から本格的に就職活動を始めました。当時、私は保育園での栄養士が委託栄養士か迷っていました。そこで私は、短大2年次の校外実習先に、保育園と病院(委託)を選択しました。この実習を通して私が決めたのは委託栄養士でした。その理由は、私は将来、管理栄養士の資格を取りたいと考えており、そのための研修やサポートなどが、大きな企業の方がより充実していると考えたからです。

就職活動は自分の人生に関わる事なので自分で決めるのは当然ですが、1人で考えていると迷いと焦り、不安で押し潰されそうになります。この就職活動を通じて感じたことは、決断するまでの間に、周りの人に話を聞いてもらい、相談し、頼ることも大切だということです。沢山話を聞いてくれた先輩や、先生、そして私を女手一つで育て、将来の夢を全力で応援し続けてくれた母にとても感謝をしています。



最後までやり通すことの大切さ

国際関係学部
国際教養学科 4年 萩原 絢花
株式会社ソラシドエア 客室乗務員

私は就職活動を通して、『最後までやり通すこと』が大切だと感じました。私は、3年の夏頃からインターンシップやセミナーに参加するなど就職活動を始め、4年の5月頃から何社か内定をいただきました。そして、9月に就職活動を終えました。

周りが進路を決めている中、就職活動を続けることは辛いと感じることはありました。

それでもやり遂げることができたのは同じ大学の同じ目標を持つ友人と毎日、目標を共有したり励ましあったり、就職指導課の方々に面接を見てもらって応援して頂けたことが私の頑張れる力になったと思っています。

また、最終面接で始発の新幹線に乗るときに、わざわざ駅まで応援しに来てくれる友人がいて本当にいろんな人に支えられました。

1人では、一年以上の就職活動をやりきれなかったと思っています。今、一番やりたい職業につけることになって、入社し仕事できることが待ち遠しいです。

こんな気持ちを味わえるのは、最後まで納得のいくまで就職活動をしたからだと思います。先輩たちには、周りの友人や先生方の力をかりて、自分の将来のために満足するまで就職活動をやりきってほしいと思います。



自分の道は自分で切り開く、そこからはたくさん助けを求める!

短期大学部
ビジネス教養学科 2年 岡本 日菜
矢崎部品株式会社
裾野製作所 事務職

私は、小さい頃から、いつ何にお金を使ったのかを把握し、それをまとめることに興味を持っていました。そして、商業高校で学んだ勉強をもっと幅広く学びたいという思いからビジネス教養学科に入学しました。

入学後は簿記を中心に学びましたが、奥が深い点や覚えることが多い点など、想像以上に苦労したことを覚えています。しかし、授業を通して勘定科目などの計算をすることの楽しさを知り、将来それを事務の仕事で活かしてみたいと考えるようになりました。

この度、事務職で内定をいただきましたが、事務の仕事は幅広く、書類の作成や処理、データの入力や発送業務など現時点で把握していることだけでも膨大です。さらに、仕事を通して多くの人と関わることになり、良好な人間関係の構築も大切になります。

少しでも早く貢献できるよう些細なこともメモを取るなど人一倍の努力を心掛け、今までお世話になった方への感謝の気持ちを忘れずに一生懸命働いていきたいと思います。